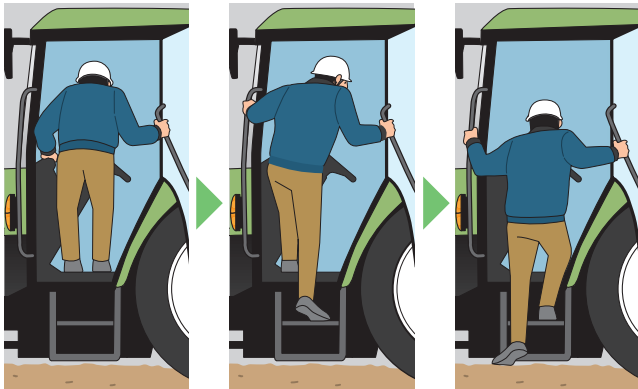


乗用型トラクター

解説

1 正解: X

- ✓ どんな場合でも、後ろ向きに降ります。トラクターのステップは、はしごと同様、前向きに使うことは想定されていません。
- ✓ 靴やステップの泥はできる限り除去します。特にぬれている場合は危険です。



右手をつかむ

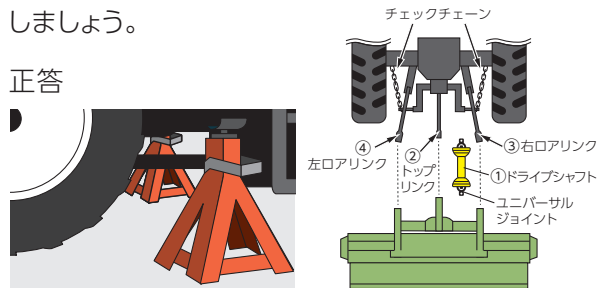
足元を見て

降りる

2 正解: 4

1. 作業機の取り外しは、ユニバーサルジョイントを外した後、3点リンク(上→右→左の順)を取り外します。
2. 作業機が落下する恐れがあるため、できるだけ下には潜らず、スタンド等を活用し、機械を安定させた状態で行いましょう。
3. トラクターを始動・発進するときはミラーを確認するだけでなく、人や障害物がないか周囲の安全を確認しましょう。始動時には、ホーンで合図をしましょう。

4. 正答



3 正解

ヘルメットを着用しておらず、転倒した際の被害が拡大する危険があります

安全フレームを立てておらず、転倒した際に下敷きになる危険があります

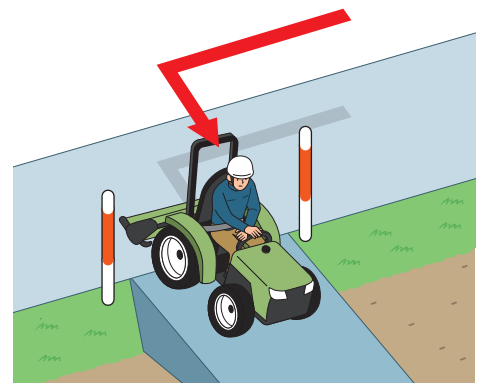
進入路に対して斜めに入ると、滑落や転落する危険があります



草刈りがされておらず、路肩が見えづらいためほ場進入路から逸脱し、転落する危険があります

- ✓ 安全フレームを倒していいのは、軒の低い車庫に入るときなど、特別なときだけです。

- ✓ 危険箇所にはポール等を設置して路肩を見える化することも有効です。

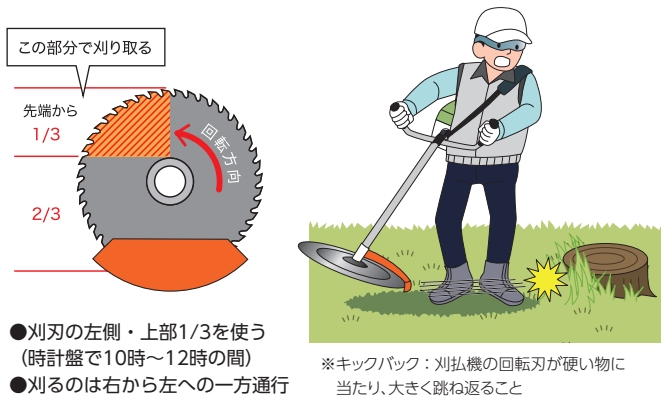


刈払機

解説

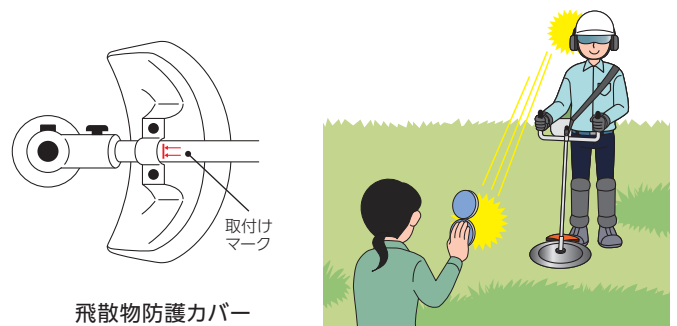
1 正解：×

- ✓ 草刈りには、刈刃の上部1/3を用います。それ以外の部分を使うと、草が詰まりやすくなります。
- ✓ 右側部分で草を刈ると、キックバック*を起こしたときに、回転刃が自分の方に向かってきます。左側でのキックバックは刃が遠ざかる方向となります。



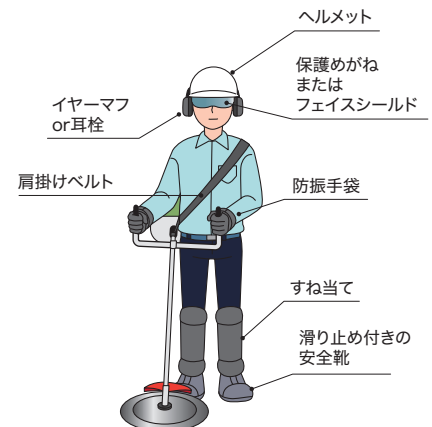
2 正解：1と3

1. 正答
2. 刈刃と飛散物防護カバーの間隔は、飛散物が作業者的の方に飛ばないように調整しているため、勝手に間隔を広げることは不可です。
3. 正答
4. 作業者に声をかけるときは、15m以上の距離を保って、正面から鏡などを使って、視覚で伝えます。

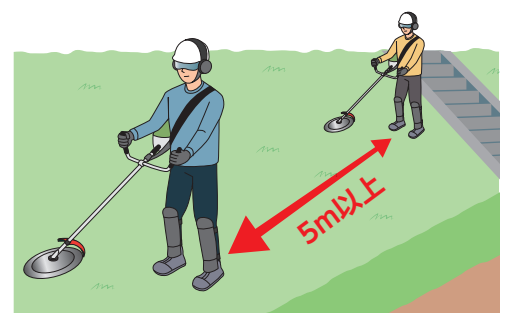


3 正解

- ✓ 正しい防護装備を着けましょう。



- ✓ 複数人で同時に作業するときには間隔を5m以上とり、斜面の場合は、間隔に関係なく、上下同じ位置での作業はしないようにしましょう。



飛散物で怪我をする恐れがあるので、肌の露出は避け長袖を着用しましょう

刈刃のチップや飛散物が顔に当たる可能性があるため、保護めがねやフェイスシールドをつけます

斜面で二人が上下の同位置で作業すると、上の人が転倒し滑落した際に回転刃が下の人に直接当たる恐れがあります。上下の同位置で草刈りすることは厳禁です

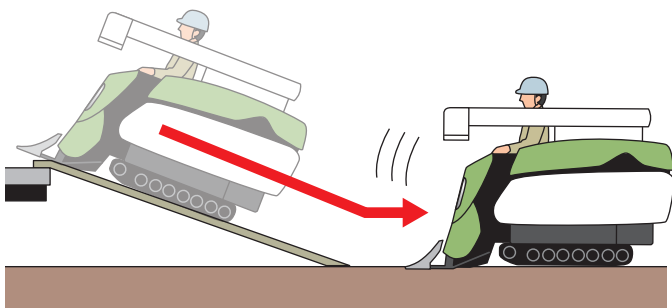
作業前に作業環境を確認し、空き缶など飛散しやすい物、キックバックの原因となる物を除去します

コンバイン

解説

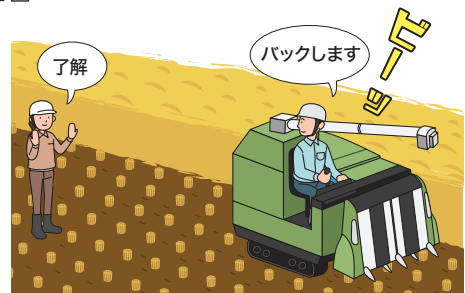
1 正解: ×

- ✓ トラックに積み降ろしするときには、フックや滑り止めが付いた適切なあゆみ板を使いましょう。長さは高さの4倍以上が必要です。
- ✓ 機体が曲がったとき、一旦地面まで戻ってから進行方向を変えます。あゆみ板の上で左右のレバー操作をするのは厳禁です。



2 正解: 3と4

1. 狭い道や草が茂っている所では、コンバインを降りて、道幅や路肩状態を確認しましょう。
2. コンバインでバックするときは、補助者による誘導や確認をお願いします。そのときは、事前に機体の死角に立たないように伝え、合図のルールを確認しましょう。
3. 正答
4. 正答



3 正解

- ✓ 手袋を着用して、手こぎ作業をするとチェーンに巻き込まれやすいので、素手で作業するようにしましょう。
- ✓ 刈取り部が上がっていると、ディバイダーに引っかかりやすく、つまずいたりするので、最下げ位置まで下げおきます。
- ✓ 詰まりを除去するなど点検・整備の時は、必ずエンジンを停止します。

